

阿古 智子 (Ako Tomoko)

学習院女子大学国際文化交流学部准教授・博士 (Ph.D.)

●略歴

1971年生まれ。1994年、大阪外国語大学外国語学部中国語学科卒、1996年名古屋大学国際開発研究科修士課程修了、2003年香港大学教育学系Ph.D. (Doctor of Philosophy) 取得。主な前歴は駐中国日本大使館専門調査員 (2001年-2003年)、姫路獨協大学外国語学部中国語学科助教授 (2003-2006年)。

●主要業績

「中国における出稼ぎ労働者子弟の教育問題」『東亜』(霞山会、2001年9月)など。

「学校組織を通してみる現代中国における国家と社会の関係：上海の公立・私立中学校におけるフィールドワークを手がかりに」『アジア研究』(アジア政経学会、2002年4月)。

「从「上訪」的「曖昧性」看中国農村社会的権力、利益和秩序：内蒙古赤石村「上訪」研究為例」『中国農村研究2002年卷』(華中師範大学中国農村問題研究中心、中国社会科学出版社、2003年)。

「中国農村の土地制度に関する諸問題と改革の動向」『国際農林業協力』(社団法人国際農林業協力協会、2003年2-3月号)。

「“農民負担”問題からみる中国基層政權改革の行方」(霞山会、2003年6月)

「中国農民争議与社会関係網的変遷—以内蒙古自治区A旗和湖北省B県為例」『鄉村中国評論』(広西師範大学出版社、2006年)。

“Chinese Education under the Socialist Market Economy: Issues of Education for Migrant Children from the Perspective of Political Economy”, *The Political Economy of Education Reforms and Capacity Development in Asia*, No.2, 名古屋大学国際開発研究科、2006年。

「求心力を失う中国農村——進まない政治改革、蔓延する自己中心主義」『時事トップコンフィデンシャル』(時事通信社、2007年8月10日号)。

「中国エイズ村の慟哭(上) 感染拡大させた血液ビジネスの闇」『読売ウィークリー』(読売新聞社、2007年11月25日号)。

「中国エイズ村の慟哭（中） 感染実態を隠した地方政府の大罪」『読売ウィークリー』（読売新聞社、2007年12月2日号）。

「中国エイズ村の慟哭（下） 『人権』『法治』欠いた巨大な格差国家の矛盾」『読売ウィークリー』（読売新聞社、2007年12月9日号）。

「オリンピックを前に高まるばかりの庶民の怒り」『エコノミスト』（毎日新聞社、2007年12月17日号）。

「学者が斬る——中国が抱える農民という爆弾」『エコノミスト』（毎日新聞社、2007年12月25日号）。

「中国農村における権力構造と関係ネットワーク——基層をめぐる政治・社会学に注目して」西村成雄・許衛東編『現代中国の社会変容と国際関係』（汲古書院、2008年）

「腐敗と格差の根源は何か——黒監獄、売血、戸籍制度……」『RATIO』（講談社、2008年6月）

●ホームページなど

http://www2.gwc.gakushuin.ac.jp/faculty/g_intercultural/teacher/ako.html